号のPrioniaceaeはかつてイグサ科に含まれていた南アフリカ固有の植物で，1属1種からなる．購入申し込みはABRS (Publication), GPO Box 787, Canberra ACT 2601, Australia.

この地球植物誌は既に次の5冊が発行されている．Introduction (iv+91 pp., 1999), 同中国語版の「序言」(iv+79 pp., 2000), Irvingiaceae (v+25 pp., 1999), Stangeriaceae (iv+9 pp., 1999. Nov. 12), Welwitschiaceae (iv+91 pp., 1999. Nov. 12)．今回の2科で科としてはようやく5科が出版されたが，今後はイグサ科やChrysobalanaceae（ビワモドキ科）のような大群も予定されており，今後の刊行は続きそうである．ここで特に紹介しておきたいのは最初に出たIntroductionである．これは本シリーズの紹介と執筆要項が主な内容となっているが，分類群についての論文を書く上で参考になるところが多く，便利な英語ハンドブックでもある．中文版も後から出版されたので，中国語用ともなる．特に役立つものはGlossaryと分布域表示のためのGeographical Systemである．地理的分布の統一的な記述のために作られたHollis and Brummitt (1992): World Geographical Scheme for Recording Plant Distributionsの中からレベル2と3の地図と地名とがIntroductionに再録されているのはありがたい．この地域名は世界共通の植物分布地域を示しており，簡便で使いやすいので将来はより広まるであろう．東アジアはどこを指すかについていえば，このGeographical Schemeでは東アジアは日本，南西諸島，韓国，台湾を指して中国を含まない．中国は東アジアと同じレベルの地域名とされている．このようなところは多分日本人の感覚と違っていて，中国は東アジアに含めたい気がするであろう．私も，例えば，サネカズラ属を中国と東アジアにあると言うのはいささか抵抗感がある．南西諸島よりも琉球がいいと思う人がいるだろう．しかし，地球的規模で植物地理上の地域名が統一されると分かりやすく，便利であることは間違いない．なお，地球植物誌計画と地球植物誌の刊行についての経緯は岩槻邦男氏が日本植物分類学会ニュースレターNo. 100（2000年11月）に詳しく紹介しているので，お読みいただきたい．

（大橋広好）

□宮城植物の会・宮城県植物誌編集委員会：**宮城県植物目録 2000** 378 pp. 2001. 同会. ¥4,000.

県内の植物を東北大学所蔵標本をはじめ，個人所蔵標本も含めて，その産地を示したもので，コケ，シダ，種子植物3,032種類が記録されている．当初は植物誌を目指したものだが，12年を費やしてひとまず目録としてまとめたものである．普通種でも，市町村単位で最低一か所は示されているとのことである．冒頭に産地名の一覧があり，すべての地名に振りがなが付けられているのは，データ処理の参考になってありがたい．ただ，よそ者の立場から注文をつければ，産地が市町村別になっていて，その中を植物地理的な5地域にまとめて並べられているので，地理不案内な者にはとても使いにくい．目録の産地がどこなのかを知るためには、漢字順か読み順に並んでいて，市町村名が伴っていればよいのにと思う．和名索引にはかなり落ちがあり，補遺の索引が一頁半ほどついているが，索引は目録を使いこなす上で大事なので，慎重に作ってほしかった．これを元に宮城県植物誌への発展を期待する．入手については下記へハガキで冊数と住所氏名を知らせれば，振り込み用紙同封で送付するとのことである．〒986–[illegible] 石巻市[illegible] [illegible]，宮城県植物誌編集事務局．（金井弘夫）

□福井県植物研究会（編）：**福井のシダと海藻．福井県植物図鑑（4）** 254 pp. 2001. 福井県県民生活部.

福井の野草（上，下），福井の樹木，に次ぐ第4巻として，シダと海藻がだされた．福井県のシダ類と海藻類の殆どの種類を網羅した写真集である．それぞれの種類の全形と必要な部分の拡大図がつけられていて，種類の同定が容易にできるように配慮してある．シダ類や海藻類は地域差が少ないので，よその地域でも使用できる．特に海藻は藻類学者の故梅崎　勇氏の若狭湾での研究を基礎にしているので，内容は充実している．美しい写真なので，本を見るだけでも楽しめる．発行は福井県大手町3丁目17-1，福井県県民生活部自然保護課．（山崎　敬）